

## 慢性腎臓病の患者の減塩で血圧、たんぱく尿が改善

近年、慢性腎臓病患者において、減塩により心臓血管病の発症や慢性腎臓病を進行させるアルブミン尿やたんぱく尿が有意に減少するとの研究結果が報告された。また、過度のナトリウム摂取は、血管の酸化ストレスや炎症、血管内皮機能障害などの原因になることが指摘されている。しかし、これまでの慢性腎臓病患者における減塩効果に関するエビデンスは研究デザインの点で限界があった。そこで、本研究では慢性腎臓病患者ではナトリウム摂取が少ないと血圧が低下し、細胞外液量やたんぱく尿、アルブミン尿が減少するとの仮説を立て、ランダム化プラセボ対照二重盲検クロスオーバー試験を実施した。

対象は、高血圧を合併した 18 歳以上の中等度から重度の慢性腎臓病患者 20 人で、平均年齢は 68.5 歳、男性が 75%であった。血圧は収縮期血圧が 151.3mmHg、拡張期血圧が 81.7mmHg、24 時間畜尿による尿たんぱくは 586mg/日、尿中アルブミンは 327mg/日であった（いずれも平均）。塩分を制限した結果、血圧が有意に低下し（収縮期/拡張期の平均低下血圧：10/4mmHg）、細胞外液、アルブミン尿やたんぱく尿も有意に改善した。改善の程度は、過去に報告された慢性腎臓病のない患者でみられた改善の程度よりも大きいため、慢性腎臓病患者は過度のナトリウム摂取による影響を受けやすい可能性があることが示唆された。また、より長期かつ大規模な試験で検討する必要はあるものの、慢性腎臓病患者における塩分制限は、心臓血管病のリスクや慢性腎臓病の進行のリスクを減少させるために強調されるべきであることが示された。

出典：Journal of the American Society of Nephrology. 2013; 24(12): 2096-2103